



農事普及だより

(10月号 平成28年10月1日～10月31日)

【発行】鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業観光課
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店
西北地域農政局地域農林水産部農業普及振興室
【編集】西北地域農政局地域農林水産部農業普及振興室



気象

(平成28年9月23日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より)
天気は数日の周期で変わってしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。



水稲

稲わらは貴重な有機物資源です。「稲わらの有効利用の促進及び焼却防止に関する条例」に基づき有効活用しましょう。

1. 稲わらの有効利用

わら焼きの煙は、地域住民の健康に悪影響を与えたり、交通の妨げになるなど問題となっている。稲わらは貴重な有機物資源であるので、焼かずに堆肥やすき込み、りんご・野菜の敷きわら、家畜の飼料等に有効に活用する。

2. 稲わらすき込みの注意点

- 稲わらは、すき込む時期が早いほど腐熟が進むので、秋すき込みを基本に、稲刈り後、できるだけ早めにすき込む。腐熟促進のため、すき込み前に石灰窒素(20kg/10a)や微生物資材等の腐熟促進資材を散布する。プラウ耕が最適であるが、ロータリー耕の場合は粗めに耕起する。
- やむを得ず春にすき込む場合は、秋に腐熟促進資材を散布しておく。

3. その他

コンバインの走行跡やくぼ地等に滞水するような水田では、翌春の耕起を容易にするため、溝切りを行い排水を良くする。



りんご

樹上選果を徹底し、味がのったおいしいりんごを収穫しましょう！

9月21日現在のふじの果実肥大(横径)は、板柳町高増(県生育観測ほ)で8.5cmと平年(8.1cm)より大きい。

1. 中・晩生種の着色手入れ

- ふじの除袋を終えていない園地では、早めに終えるようにする。
- 葉摘みは、初め果実に密着している葉を摘む程度にとどめ、その後数回に分けて果実に日陰をつくる葉を摘み取る。着色だけを考えると早くから強く葉を摘みすぎると、鮮やかな色が着かないばかりか味(糖度)を低下させるので注意する。
- 果実の全面に色が入るように、随時つる回しを行う。
- 支柱の手直しや枝の吊上げなどを随時行い、果実に十分日光が当たるよ

うにする。

2. 中生種の収穫

- 収穫時期は、着色だけで判断せず、地色の抜け具合や糖度・食味等も併せて判断する。特に、着色系統や反射資材を用いている場合は、食味を必ず確認する。
- 黄色系品種(トキ、シブノゴールド等)は「標準カラーチャート」等を活用し、食味を確認しながらすぐりもぎを行い、適期収穫に努める。
- 収穫後は、速やかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

3. 樹上選果(見直し摘果)

着果量が多い園地もあるので、障害の程度が大きい果実を中心に見直し摘果する。特に、有袋果は、除袋後に丁寧に見直し、良品生産に努める。

4. 黒星病対策

今後、2次伸長葉に黒星病が発生した場合は、来年の主要な伝染源となるので、見つけ次第摘み取り処分する。

5. モモシクイガ対策(被害果の除去)

モモシクイガによる被害果を流通させないため、着色手入れや収穫、山選果の際に選別を徹底して行う。

6. 果実疫病(おそ疫病)対策

- 降雨時の収穫は避ける。やむを得ず降雨時に収穫する場合は、果実に泥を付着させないように次のことに注意する。
(ア) りんご箱やかごを直接地面に置かない。
(イ) 泥の付いた手袋などをしてそのまま果実を扱わない。
- 落果や収穫時に落とした果実を収穫果に混入させない。
- 収穫果を長く野積みしておくとう感染の危険が増すので、速やかに貯蔵庫に移す。

7. 風害防止対策

- 台風などの気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。
- 幹や主枝などに空洞が生じている場合や、太い枝や若い樹の幹が腐らん病の被害を受けている場合は、支柱で支え、縄などで結束する。
- 幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

8. 鳥害防止対策

ムクドリ(サクラドリ)、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。なお、防鳥網の網目は35mm以下とする。



ぶどう

着色、糖度を確認して適期に収穫をしましょう！！

1. スチューベンの収穫

- 十分に着色し、糖度が18度以上になったものから順次収穫する。
- 収穫は、朝夕の果実温度の低い時間に行う。
- 降雨があった直後は完熟果でも糖度が低下し、輸送中の腐敗も多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。

2. スチューベンの貯蔵

- 果実の果軸が太く、果房全体が引き締まり、果粒に張りのあるものを貯蔵する。

- 病害虫の被害の大きい果実は避ける。また裂果粒、腐敗粒等は取り除く。
- 冷蔵庫への入庫は、収穫後できるだけ早く行う。
- 普通冷蔵では温度0℃、湿度95%で約60日の貯蔵が可能である。CA貯蔵では酸素3～7%、二酸化炭素1～3%で約90日の貯蔵が可能である。
- 脱粒はエチレンにより促進されるので、りんごなどのエチレン生成量の多い果実と一緒に貯蔵は避ける。
- 腐敗は灰色かび病菌によるものが多いが、この菌は低温でも良く生育するので、貯蔵温度を0℃付近に保持するとともに、貯蔵中でも被害果を随時取り除く。

3. 施肥(基肥)

収穫後速やかに、下表を目安に施用する。

○成木10アール当たり年間の標準施肥量

| | 窒素 | リン酸 | カリ | 備考 |
|---------------------------|---------------|-------|-------|----------------|
| 地力の高い園地 (沖積、火山灰土の深い園地) | 10.5～ 12kg | 7～8kg | 7～8kg | 年間標準施肥量の70～80% |
| 地力の低い園地 (砂れき質の沖積、火山灰土) | 9 | 6 | 6 | 年間標準施肥量の60% |
| (参考：年間標準施肥量) | (15) | (10) | (10) | |

◆爆音機による鳥害対策に注意しましょう◆

収穫期を迎え爆音機を設置している園地が多くなる一方、爆音機の音に悩まされている住民の声が聞こえています。住宅地の近くの園地では爆音機の使用を控え、電子防鳥機、防鳥風船、防鳥テープ等を設置して鳥害を防ぎましょう。



野菜

アスパラ菜(オータムポエム)

老化苗にならないよう計画的に定植を行いましょう。

1. 本畑準備

- 施肥量と栽植様式
 - トマトなど野菜の後作の場合は無肥料とする。
 - ハウスに新規に作付けする場合(100坪当たり：成分量)

| 窒素 | リン酸 | カリ |
|-----|-------|-----|
| 5kg | 6～7kg | 5kg |

- 栽植様式 (cm、本/100坪)

| うね幅 | 条間 | 条 | 株間 | 栽植本数 | 備考 |
|-------------|----|---|----|-------|-----------|
| 180 通路含む | 35 | 3 | 35 | 1,500 | 9月下旬以降のは種 |
| | | | 30 | 1,800 | |

- 地温確保のためマルチを張る。
- 定植数日前に、ほ場に十分かん水しておく。

2. 定植

- 育苗日数20日～25日程度、本葉3～4枚頃が定植の適期である。老化苗は生育不良となるため、定植が遅れないようにする。
- 苗は深植えしない。

3. 管理

- (1) 生育初期は徒長しやすいので、本葉5枚頃までは昼夜ともハウスを開放しておく。
- (2) 定植後莖が立ち、主莖長が5～10cmくらいになったら、大きい葉を5～6枚残して摘心を行う。

ほうれんそう

は種期が遅れると収穫期が大幅に遅れるので、計画的には種しましょう。

1. 作型

| は種期 | 収穫期 |
|-------|-------|
| 10月上旬 | 11月中旬 |
| 11月上旬 | 2月下旬 |

2. 本畑準備とは種

(1) 施肥量と栽植様式

- トマトなど野菜の後作の場合は無肥料とする。
- ハウスに新規に作付けする場合や土壌のECが0.6未満の場合は、下表を目安に基肥施用する。

(100坪当たり：成分量)

| 窒素 | リン酸 | カリ |
|-------|-------|-------|
| 6～7kg | 4～5kg | 5～6kg |

● 栽植様式 (cm、本/100坪)

| うね幅 | 条間 | 条 | 株間 | 栽植本数 |
|-----------|----|---|----|--------|
| 130(通路含む) | 12 | 8 | 6 | 34,000 |

(2) は種

- は種前にロータリー耕を行い、土の表面が乾かないうちには種する。
※表面が乾いているときは必ずかん水後には種する。(は種後のかん水は土が締まり発芽不良となりやすい。)

こまつな

1. 作型

| は種期 | 収穫期 |
|-------|-------|
| 10月下旬 | 12月下旬 |
| 11月中旬 | 2月下旬 |

2. 本畑準備とは種

(1) 施肥量と栽植様式

- トマトなど野菜の後作の場合は無肥料とする。
- ハウスに新規に作付けする場合(100坪当たり：成分量)

| 窒素 | リン酸 | カリ |
|-------|-------|-------|
| 3～4kg | 4～5kg | 3～4kg |

● 栽植様式 (cm、本/100坪)

| うね幅 | 条間 | 条 | 株間 | 栽植本数 |
|-----------|----|---|----|--------|
| 130(通路含む) | 15 | 7 | 5 | 35,900 |

(2) は種

- ※ほうれんそうを参照

大豆

収穫は、適正水分で行いましょう。

1. 収穫前の管理

- (1) 雑草や青立株は、汚粒の原因となるので、収穫する前に抜き取る。
- (2) 排水対策として、明きよを施工する。

2. 収穫

- (1) 収穫は、完全に落葉し、莢が褐色に変化し、莢内で子実がカラカラ音かする頃が目安である。
- (2)刈取時の水分
子実水分20%以下(爪を立てると少し跡が残る程度)
莖葉水分50%以下(爪でこすっても表皮が剥けない程度、手でポキッと折れる)
- (3) コンバイン収穫時に土かみによる汚損粒が発生しないよう注意する。
- (4) 降雨後は、莖や莢が十分乾燥したことを確認してから作業を行う。

3. 乾燥・調製

- (1) 子実水分は15%以下に調製する。
- (2) 紫斑病、マメシロクイガの被害粒を除去する。

小麦

適正な管理で、越冬前の生育量を確保しよう。

1. 湿害対策

ほ場の排水対策を徹底し、湿害による枯死株が発生しないようにする。

2. 雪腐病防除

- (1) 11月中旬(根雪約4週間前)から根雪直前の期間に防除を行う。
- (2) 作業の容易な時期に、散布後速やかに乾くような条件で防除する。

3. 麦踏み

- (1) 早播きや高温などにより伸びすぎた場合や、凍霜害の恐れがある場合には、トラクタの車輪又はローラー等で踏圧作業を行う。
- (2) 時期は、10月下旬～11月中旬及び莖立ち前の3月下旬～4月上旬とする。
- (3) ほ場が多湿条件の場合は、湿害が助長されるので行わない。

花き

ハウスの補修や暖房機の保守点検を行うとともに、ビニール資材等を活用した二重被覆で保温効率を高めましょう。

キク

1. 今後の作業

「神馬」の11～12月出荷栽培では、消灯前からの温度が花芽分化や開花に大きな影響を与えるため、計画的に温度管理を行う。
消灯前から温度を少しずつ上げ、消灯時から夜温18～20℃を確保すると開花が揃う。発蕾以降は13～15℃を保持するようにする。

2. 病虫害防除

ヤガ類、アブラムシ類の発生に引き続き注意する。また、白さび病が発生しやすい時期なので、ハウスの換気や薬剤散布等により予防に努める。

トハコギキョウ

1. 今後の作業

収穫後は速やかに片付けを行い、後作に葉物を作付けするなどして除塩や連作障害対策に努める。

越冬栽培では、11月上旬頃までに定植できるよう計画的に作業を行う。
育苗時は、発芽までは20～25℃、発芽後は15℃前後になるよう管理し、極端に乾燥しないよう注意する。

ストップ! 農作業事故!!



秋の農作業安全運動実施中!

期間：平成28年8月15日～10月31日

日本一健康な土づくり運動展開中

稲わらは焼かずに有効活用しましょう!!

○安心な農産物生産のため、農薬使用状況を必ず記帳しましょう。

○農薬使用の際には、必ず使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。

○短期暴露評価の導入により使用方法の変更が予定されている農薬は、容器に表示された使用方法ではなく、変更後の使用方法に基づいて使用しましょう。

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。

鶴田町農業支援センター 「豊明館」となり

午前9時から午後5時 ☎22-2111 (役場産業観光課)

町農業委員会では、毎年6月中旬から農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。
農地の貸借や売買については、町農業委員会へご相談ください。

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～
URL <http://www.town.tsuruta.aomori.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>